

2025年度大学院博士前期課程学内選考試験問題

研究科名	科目名
文学研究科 人文学専攻 哲学歴史学専修	専修共通問題

歴史を専攻する者は、以下から4つの用語を選択し、その用語について説明しなさい。なお、選んだ問題の番号をそれぞれの解答の最初に記すこと。

- ① イリ駐防八旗
- ② ヤークーブ=ベグ
- ③ 八旗制度
- ④ ジハンギール（張格爾）
- ⑤ イリ条約
- ⑥ 藩部

解答または解答例：

Sample Answer(s) or Outline：

「解答例」

①イリ駐防八旗は、乾隆朝中葉にジュンガルを征服した清朝が、旧ジュンガル支配地（新疆）のためにイリ地域に設置した八旗軍のことである。八旗満洲および、オーロト・チャハル・シベ・ソロン（ダグール含む）の5部族の八旗から構成され、主に新疆北部の国境防衛を担った。

「解答例」

②ヤークーブ・ベグは、19世紀後半にコーカンド・ハン国の将軍として台頭し、清朝の西北ムスリムの大反乱に乗じて新疆へ侵入し、カシュガルを中心に勢力を拡大した。1860年代後半にはタリム盆地一帯を支配し、政権を樹立してオスマン帝国やロシアと外交関係を結んだが、1877年に左宗棠が指揮する清朝軍に敗れ、政権は崩壊した。

「解答例」

③八旗制度は、17世紀初頭にヌルハチが創設した満洲人の軍事・社会組織で、黄・白・紅・藍の四旗にそれぞれ鑲（縁取り）を加えた八つの組織からなる。正黄・鑲黄・正白は「上三旗」として皇帝直属とされ、他の下五旗は満洲諸王を「旗王」とした。八旗は軍事組織であると同時に、戸籍・俸給などを通じて旗人を統合する社会組織でもあり、また同時に旗人官僚の重要な母体でもあった。

「解答例」

④ジハンギール（張格爾）は、19世紀前半に新疆南部で清朝への反乱を主導したホージャ家の指導者である。1820年代、ジハンギールはコーカンドから侵入してカシュガルやホータンなどを一時占拠し、イスラーム的権威を掲げて支持を集めたが、清朝軍の反撃を受けて捕らえられ、北京で処刑された。

「解答例」

⑤イリ条約は、1881年に清とロシアの間で締結された条約である。全権大使の曾紀澤の交渉を通じて、当初の不利な案を修正してロシア占領下にあった新疆北部のイリ地方の大部分を返還させた。賠償金支払いやイリ西部地域の一部割譲、通商特権拡大などの譲歩はあったが、列強を相手に領土を回復した点では画期的な条約であったと評価される。

「解答例」

⑥藩部とは、モンゴル・チベット・青海・新疆の非漢族の首長層および彼らの居住地を指す概念である。藩部の非漢族首長層は、皇帝や満洲人王公層と同列の存在とされるなど清朝において高い地位を占め、在地における自治が認められた。藩部に関する諸事務は、主に理藩院が管轄した。

出題意図：

Purpose of Question：

本問題は、清朝の国家体制及び边疆統治に関する基礎的理解を測ることを目的とする。八旗制度や藩部統治体制、イリ駐防八旗といった清朝の基本的な軍事・統治制度、ジハンギールやヤークーブ＝ベグの反乱、イリ条約という边疆（とくに新疆地域）における対外関係に関する設問を通じて、多民族からなる前近代的帝国であった清朝がいかにして国家体制を構築し、また直面する問題に対処したいのかを総合的に把握しているかを問う。